

KINGCA2024 参加感想記

令和 6 年 10 月 2 日

大阪赤十字病院 消化器外科 吉田真也

この度、2024 年 4 月に開催された KINGCA2024 学会に参加し、貴重な経験をさせていただきました。本学会では、「Outcomes of Minimally Invasive Gastrectomy After Chemotherapy in Elderly with Advanced Gastric Cancer」という演題で発表を行いました。当初の予定ではポスター発表でしたが、ありがたいことに口演発表に変更となり、より多くの参加者に研究成果を伝える機会をいただきました。

昨年の KINGCA2023 では、Master class にも参加し、Yonsei University, Severance Hospital に訪問させていただきました。ソウルの大きな病院の一つであり、年間に 1000 件を超える胃癌手術を実施されておりその集約化規模の大きさに非常に驚きました。2023 年にもポスター発表を行い、また韓国に行きたい思いがあり、2024 年にも再度、演題を応募させていただいたところ、幸いにも採択いただき、学会参加をさせていただくことができました。

私の発表テーマは「Outcomes of Minimally Invasive Gastrectomy After Chemotherapy in Elderly with Advanced Gastric Cancer」でした。本研究では、高齢者の進行胃癌患者に対する化学療法後の低侵襲胃切除術の当院での治療成績について報告しました。今回の検討では、高齢者の進行胃癌患者において、化学療法後の低侵襲胃切除術は安全に施行できていることを報告しました。海外でのオーラル発表は初めての経験でしたが、英語の原稿を準備して何とか発表を終えることができました。私が発表したセッションでは、韓国・中国・インドからの発表もあり、非常にレベルの高い発表ばかりでたいへん刺激を受けました。みなさんの英語が非常に流暢であり、もっと英語のプレゼンテーションに慣れる必要があると痛感いたしました。

韓国からの発表では、1 施設の発表であっても非常に症例数が多く、改めてその集約化と規模に驚かされました。日本からも、NCD などのデータベースを用いた研究が発表されており、国際的な発表では、今後もデータベースを用いた大きなサンプルサイズで検討することの重要性を感じました。

その他にも、シンポジウムや教育セッションなどにも参加させていただき、韓国での縫合不全のマネジメントや、手術の工夫などを学ぶことができました。縫合不全では、日本で

は使っていないステントを用いたりしており、非常に勉強になりました。手術手技の tips では、脾臓からの出血マネジメントや、視野確保のための肝臓圧排法などについて、いろいろな施設での方法も紹介されており、大変参考になりました。

今回の KINGCA2024 学会への参加を通じて、自身の研究を国際的な場で発表し、多くの貴重な意見やフィードバックを得ることができました。この経験を通じて得た知見や人脈は、今後の研究活動や臨床実践において大いに役立つものと考えております。改めて、学会参加を支援して下さった胃癌学会に心より感謝申し上げます。



